

教師のためのメディア情報リテラシー・カリキュラムにおけるメディア活用

東京学芸大学 和田正人

ワークショップ「教員養成・現職研修におけるメディア活用」2015.2.21

「教師のためのメディア情報リテラシー・カリキュラム：Media and Information Literacy Curriculum for Teachers(MILCT). UNESCO. 2011)

(英語版 <http://unesdoc.unesco.org/images/0019/001929/192971e.pdf>)

(日本語版 <http://unesdoc.unesco.org/images/0019/001929/192971jpn.pdf>)

情報リテラシー

情報のニーズを決定し、流通させる	情報を位置づけ、情報にアクセスする	情報を評価する	情報を組織する	情報を倫理的に用いる	情報を伝達する	情報検索のために ICT スキルを用いる
------------------	-------------------	---------	---------	------------	---------	----------------------

メディア・リテラシー

民主主義社会におけるメディアの機能と役割を理解する	メディアがその機能を十分に発揮するための状況を理解する	メディアの機能に照らしてメディアの内容をクリティカルに評価する	自己表現と民主主義社会への参加のために、メディアと関わる	利用者が生み出すコンテンツを提供するために必要なスキル (ICTs を含む) を振り返る
---------------------------	-----------------------------	---------------------------------	------------------------------	--

図1 メディア情報リテラシーにおける主要な成果・要素

表1 メディア情報リテラシーに含まれるリテラシー

メディア	表現・情報の自由	インターネット	テレビ
情報	デジタル	ゲーム	ニュース
図書館	コンピュータ	映画	広告

表2 モジュールとその内容

モジュール	内容
1	市民権、表現と情報の自由、情報へのアクセス、民主的な対話、生涯学習
2	ニュース、メディア倫理と情報倫理の理解
3	メディアと情報のリプレゼンテーション
4	メディアと情報の言語
5	広告
6	新旧のメディア
7	インターネットの機会と挑戦
8	情報リテラシーと図書館スキル
9	コミュニケーション、MILと学習-モジュールの頂点
10	読者/視聴者
11	メディア、技術と地球村

実践例：MILCTのモジュール4（以下M4とする）のメディア言語とM3のリプレゼンテーションの学習（協働学習）

1. 映画・ドラマ比較

日本と海外（米国、韓国）の映画・ドラマ比較

日本の映画・ドラマの海外でのリメイク版について、Youtube上での予告編や本編から、メディア言語を比較することで、日本と海外でのリプレゼンテーションの違いから、文化の違いを認識する。

2. 1分間の動画(one minute wonder)作成

「若者の問題」についての1分間の動画を作成する。メディア言語を使うことによってリプレゼンテーションを示す。動画のデザイン・分析・制作の学習。

3. デジタルストーリーテリング作成：自分たちのメディア史、東日本大震災

メディア言語を用いてリプレゼンテーションを示す。動画のデザイン・作成・分析を行う。

1) 自分たちのマスメディアやゲームや音楽の接触の歴史の動画を作成する。

2) 東日本大震災に関連した動画（津波の災害、児童生徒・学校の災害と復興、原発被害など）を作成する。